

【様式3】事業評価個票

事業名	オリンピックメダリスト育成事業費		開始/終了(予定)年度	平成21 / 未設定		
部局・担当課名	教育局 スポーツ保健課 競技力向上・アスリート育成推進室					
総合発展計画実施計画の位置付け	政策の柱、政策	[政策の柱1] 次代を担い地域を支える人材の育成・確保 [政策2] 生涯を通じた多様な学びの機会の充実				
	施策	[施策2] 県民や地域に活力をもたらす多様な学びの促進				
	目標指標	—				
事業の目的	早い段階で多様な種目の選択機会とトップアスリートを目指すために必要な最新の育成プログラムを提供することで、世界レベルの大会で活躍し、リーダーとして本県次世代を牽引する人材を輩出する。					
事業概要 (令和4年度の実施内容)	小学3・4年生で選考した児童を最新かつ専門的な5年間のスポーツ教育プログラム等で育成する。 (1) 選考会の実施 県内在住の小学3・4年生を対象に将来オリンピックや国際大会などトップレベルでの大会で活躍できる可能性のある小学生を選考する。 (2) プログラムの概要 ・オリンピックや専門家を招いてアスリートに必要な運動能力や知的能力の向上を図るためのキャンプを実施 ・中央競技団体や県内競技団体による競技種目適性を診断するための競技団体トライアウトを実施 ・競技体験と日常的な練習環境の機会を提供するための競技団体プログラムを実施					
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 () 上記実施方法とする理由： 実行委員会として日本スポーツ振興センターや中央競技団体等と連携することで、より効果的なトップアスリートの育成が可能となるため。				
当初予算額 (単位：千円)	予算見積書グループ名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	① オリンピック選手輩出プロジェクト	22,394	22,394	21,962	21,542	21,153
	②					
	③					
	④					
計	22,394	22,394	21,962	21,542	21,153	
財源内訳 (単位：千円)	国庫支出金					
	県債					
	その他特定財源	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
	一般財源	14,394	14,394	13,962	13,542	13,153
計	22,394	22,394	21,962	21,542	21,153	

活動指標	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和—年度 (最終目標)
		①スポーツタレント育成人数(累計)	活動実績 人 373	398		
	当初見込み 人 373	403	433	463	—	
②国体出場者数(単年度)	活動実績 人 25(冬季) 主会期中止	473			—	
	当初見込み 人 490	490	490	490	—	
③	活動実績 人					
	当初見込み 人					
④	活動実績					
	当初見込み					
成果指標(所管部局の分析)						
①スポーツタレント発掘事業の修了生における日本代表(年代別代表を含む。)	成果実績 人 2	5			—	
	目標値 人 6以上	6以上	6以上	6以上	—	
	達成度 % 33%	83%			—	
②本県ゆかりのオリンピック出場者数(うち、メダリスト人数)	成果実績 夏季5(0) 冬季6(1)				—	
	目標値 夏季5(1)以上 冬季1(1)以上			夏季3(1)以上	—	
	達成度 % 100%(0%)				—	
③	成果実績					
	目標値					
	達成度 %					
④	成果実績					
	目標値					
	達成度 %					

活動指標及び成果指標設定の考え方

≪活動指標≫
 トップアスリートを輩出するためには、ジュニア期の発掘・育成が必須であることから、本事業による育成人数を設定
 ≪成果指標≫
 オリンピックメダリストの輩出に向けて、世界で活躍する次の世代の育成が重要であることから、本事業経験者による日本代表数(年代別代表を含む)を設定

事業所管部局による評価・検証(令和5年6月)

項目	評価 (A/B/C)	評価に関する説明	課題
事業の必要性	A	本事業は、オリンピック選手の輩出という目的を達成するための中核を成す事業であり、ジュニア期からの早期育成を担うもので、優先度も高い。また、競技適性の診断及びアスリートとして必要となる知識や考え方についての専門家による指導を県が担い、普段の練習等の基礎力強化は所属する競技団体や地域のスポーツクラブ、学校部活動等が担うことにより、役割分担しながら県全体でのジュニア世代の競技力向上を目指している。	スポーツタレント発掘事業(YAMAGATAドリームキッズ)の修了生が、年代別日本代表に延べ28名が選出されるなど今後のオリンピック出場が大いに期待されることではあるが、県内において次世代を担う子どもたちを指導する指導者の確保・養成も急務となっている。 本事業は、日本スポーツ振興センターや日本オリンピック委員会、中央競技団体等と連携し、オリンピックや国内トップクラスの指導者・専門家を招聘してプログラムを展開している。今後、オリンピック等による知的プログラムを開放し、県内指導者や県民にも参観していただけるよう見直しを図っていく。
事業の効率性	A	支出先の選定や受益者との負担関係は妥当であるか。	
事業の有効性	A	事業実施に当たっての手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。また、類似事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	
事業の有効性	A	活動実績は見込みに見合ったものであるか。また、整備された施設や成果物などは十分に活用されているか。	
事業の有効性	A	成果実績は成果指標に見合ったものとなっているか。	

(評価基準)「事業の必要性・事業の効率性 A:妥当性が高い/B:おおむね妥当である/C:妥当性が低い」

「事業の有効性(達成度) A:目標を上回る成果、活動見込を上回って達成(100%以上)/B:おおむね目標どりの成果、活動見込をおおむね達成(80%以上100%未満)/C:目標を下回る成果、活動見込を下回った(80%未満)」



7期生【競泳(背泳ぎ)】

長岡愛海

FINA世界ジュニア選手権
100m/50m背泳ぎ 準優勝

写真:山形新聞社提供



1期生【スキー(アルペン)】

五十嵐紫乃

全日本スキー選手権大会
女子スーパー大回転 優勝

写真:山形新聞社提供



2期生【ボート】

鈴木伶奈 (写真中央)

全日本選手権
女子舵手付きフォア/
女子エイト 優勝



4期生【エアピストル】

佐藤 琳

ISSFジュニアワールドカップ
ズール大会 入賞

写真:早稲田スポーツ新聞会提供

Since
2009

YAMAGATA 選手村キッズ

中絶! 世母の了りト!!

世界に挑戦し続ける
選手たち



7期生【カヌー(スプリント)】

鈴木葉月

ジュニア&U23
世界選手権大会 出場

写真:山形新聞社提供



6期生【陸上(ハードル走)】

紺野稜真

U20アジア選手権
400mハードル 準優勝

写真:山形新聞社提供



5期生【フェンシング】

大西 愛

女子エベジュニア
トルコ・イスタンブール
ワールドカップ 出場



6期生【ホッケー】

齋藤はなみ

AHFジュニア
アジアカップ 第3位

写真:公益財団法人
日本ホッケー協会提供

年代別日本代表のべ31名輩出

令和5年7月14日
山形新聞掲載
(転載禁止)

Road to
2024